

令和4年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和4年7月15日（金）

【藤井（保健医療課課長）】 皆さん、こんにちは。保健医療課の藤井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催させていただきます。

委員の皆様には、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

本日は、森下委員は所用のため御欠席ということで伺っております。

それでは、会議に先立ちまして、桑名市保健福祉部部長の日佐から御挨拶申し上げます。

【日佐（保健福祉部部長）】 皆様、改めまして、こんにちは。保健福祉部長の日佐でございます。

本日は、お忙しい中、また、天候の悪い中、桑名市総合医療センター評価委員会に御出席をいただきましてありがとうございます。また、平素は地域医療並びに市政全般にわたりまして、御協力、御理解いただきましてありがとうございます。

コロナでございますが、御案内のとおり、非常に増えておりまして、1,000人を超えて、それから、連日、三重県では過去最高というような状況が続いておるわけなんですけれども、総合医療センターにおきましても、昨年度につきましては、発熱者専用外来とか、それから、抗体カクテル外来とか、また、集団のPCRの検査と、いろいろ様々な対応をしていただいております。今年度につきましても桑名市も協力いたしまして、適宜、コロナ対策、対応してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は、令和3年度の業務の実績につきまして、御評価をいただきたいと思っております。令和3年度も令和2年度と同様、コロナにおける影響はいろんなところで出ておりますが、委員の皆様におかれましては忌憚のない御意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【藤井（保健医療課課長）】 座ったままで失礼します。

続きまして、今回より御参加いただきます新しい委員を御紹介させていただきます。

桑名医師会長が交代されましたので、御紹介させていただきます。

6月23日から新たに会長に就任されました西村英也様でございます。

西村会長より一言御挨拶を頂戴いたします。

【西村委員】 青木会長を引継ぎました西村です。

この委員会につきましては、外部から伝え聞く程度でございましたけれども、順調に推移していると伺っております。新型の感染症のこともあり評価が難しい項目もあろうかと推察しておりますが、先生方のお話を拝聴しながら評価に参加できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【藤井（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

それでは、会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

まず、令和4年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会次第、次に、令和3事業年度に係る業務実績報告書、A3のものになります。次に、令和3年度財務諸表等、その添付資料といたしまして、順番に、決算報告書、事業報告書、監査報告書がございます。

その次ですが、資料1、損益計算書における前年度との比較、参考資料1、業務実績報告書の構成、参考資料2、地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価の基準、参考資料3、第3期中期目標、参考資料4、第3期中期計画、参考資料5、令和3年度計画、それから、本日お席に席次表を置いております。資料のほう、よろしかったでしょうか。

それでは、本日の議事進行につきまして御説明させていただきます。

参考資料の1、業務実績報告書の構成を御覧ください。

令和3事業年度業務実績報告書の項目と対応するページ数、法人の自己評価を記載しております。

大項目の第1から第3の財務内容の改善に関する目標を達成するため取るべき措置までが評価項目となっております。評価につきましては、中項目ごとに事務局から小項目の業績評価について、法人の自己評価を含め説明をいたします。

その後、小項目ごとに委員の皆様から御質問、御意見をいただきます。

その後は、中項目ごとに説明と評価の繰り返しとなります。

大項目の第2、第3につきましては小項目がありませんので、大項目ごとということになります。

なお、本日の委員会は午後5時をめぐりに終了し、それ以降は次回にお願いしたいというふうに考えております。

それでは、豊田委員長に会議の進行をお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、始める前に、まず、桑名市総合医療センターの竹田理事長より、何かございましたら一言お願いいたします。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 本日は、大変暑いところ、また、大変お忙しいところ、集まっていただきましてありがとうございます。どうぞよろしく評価のほどをお願いしたいと思います。

昨年度は、伊佐地先生も十分御存じのように、とにかくコロナに追われて、一昨年度もそうですけれども、中期目標とかいろんなところに掲げておりました目標をなかなか達成するような余裕がなかったというのは正直なところでは。特に第5波のときの混乱は非常に激しくて、コロナに対応するのが精いっぱいというのが、正直、私どもの感想ですけれども、その中でも皆職員がよく頑張ってやってくれたとっております。その辺のところを評価項目にも上がっていると思いますので、どうぞよろしく何とぞ評価のほど、お願いしたいと思います。

本日はどうもありがとうございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、令和3事業年度の業務実績に入りたいと思うんですが、今回から新しい委員として西村先生が入られましたので、ぜひ忌憚のない御意見をどんどんおっしゃっていただければと思います。この委員会、一応公開という形でやっておりますけれども、委員の皆様、どうですか、公開なんか全然気にせずにとんどん御自分の御意見をおっしゃるといふ、そんな雰囲気も委員会にございますので、ぜひよろしくをお願いしたいと思います。

それでは、まずは、事務局から業務実績報告1ページの桑名市総合医療センターの概要と2ページの全体的な状況につきまして、報告をお願いいたします。

そして、その後、引き続き項目別の状況としまして、4ページから8ページにかけての中項目の1、医療の提供について、法人の自己評価を含めて報告をお願いいたします。

それでは、事務局、よろしく申し上げます。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、事務局から令和3事業年度の業務実績報告の内容について御説明させていただきます。

1ページ目をお開きください。

まず、桑名市総合医療センターの概要でございます。

1の現況のところは、前年度と比較して役職員数を変更しておりますが、役員に変更は

ございません。

次に、2の桑名市総合医療センター、基本的な目標等につきましては、中期目標に基づいて作成されております。

また、右側、別表、主な役割及び機能といたしまして、令和4年4月1日に三重県がん診療連携拠点病院の指定を受けることができたため追加となっております。

2ページ目をお願いいたします。

全体的な状況、1、法人の総括と課題でございますが、こちらにつきましては朗読させていただきます。

令和3年度は第3期中期計画の3年目となり、これまでの実績及び課題を踏まえながら経営の効率化、医療サービスの充実に努め、年度計画及び中期計画の達成に向けた病院運営に取り組みました。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、桑名保健所や地域の医療機関と連携し、検査及び診療体制の整備を行い、令和4年3月には三重大学、桑名市、桑名市総合医療センターにて新しい未来の共創に関する協定を締結し、AIを活用した診断支援など、医療のデジタルトランスフォーメーション、DX化に取り組むこととしています。

令和3年度の経営状況につきましては、医業収益が前年度実績を上回り、予算計画を達成しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、新入院患者数及び病床稼働率ともに計画値を下回ったものの、集中治療室の稼働率の上昇や中等症以上の新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れ、外来化学療法が増加に伴い、1人1日当たり外来収益について増加したことから、医業収益は予算計画を達成する結果となりました。

また、新型コロナウイルス感染症患者の受入れのための病床確保に対する補償など各種補助金等の交付により、減価償却前利益は15億4,900万円、経常収支比率は101.2%となりました。しかしながら、感染症の収束後を見据え、安定した財務基盤の構築に向けて、さらなる収入の確保と費用節減が課題となっております。

以上でございます。

続きまして、2の大項目ごとの特記事項でございますが、こちらにつきましては各項目で順次説明をさせていただきます。

4ページをお願いいたします。

項目別の状況でございます。

こちらにつきましては、令和3年度計画に対する小項目ごとの実施状況と、それに対す

る法人の自己評価を5段階で行っていただきました。

法人の自己評価につきましては、参考資料の2、地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価基準にあります評価基準に基づいて5段階評価をしておりますので、項目別に御説明いたします。

大項目第1、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置、中項目1、医療の提供につきまして、順に御説明いたします。

小項目1、重点的に取り組む医療の実施、a) 救急医療につきましては、輪番病院として二次救急医療に従事し、脳卒中センター及び循環器センターでは365日24時間体制を継続しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的ではございますが、救急搬送受入れを制限せざるを得ない状況も生じたことに伴い、総合医療センターの令和3年度の救急搬送患者数受入れ件数の実績は3,813人となり、前年度実績を上回ったものの計画値に至っておりません。

b) がん医療につきましては、集学的、標準的ながん治療を提供するに当たり、キャンサーボードを定期的で開催し、治療方針に関する意見交換や検討を行いました。

また、地域の医療従事者を対象とした緩和ケア研修会の開催など準備を進め、令和4年4月1日付で三重県がん診療連携拠点病院の指定を受けることができました。

がんに係る手術件数の実績は697件、全手術件数の実績は2,979件で、感染対策のため予定手術を延期したことにより前年度実績を下回り、計画値に至っておりません。

c) 脳血管障害、循環器疾患、消化器疾患、運動器疾患につきましては、脳血管障害及び循環器疾患については365日24時間体制での緊急対応を継続しました。

また、カテーテル治療、鏡視下手術を推進するなど低侵襲医療を推進しています。しかしながら、疾患別の患者数につきましては、新入院患者数が減少し、循環器疾患及び消化器疾患については前年度実績を上回ったものの、いずれの項目においても計画値に至っておりません。

d) 周産期医療及び小児医療につきましては、NICU2床を運用し、高度医療及び専門医療の提供を継続しています。分娩件数の実績は327件で前年度実績を上回り、計画値を達成しております。

また、7月より障害者総合支援法に基づく短期入所事業所の指定を受け、小児のレスパイト入院を受け入れる体制の整備を行っております。

以上、項目によりまして計画値を達成しているものと未達成の項目とがございますが、総合的に見ておおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

続きまして、6ページをお願いいたします。

小項目の2、地域医療連携の推進について御説明いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響により初診患者数は前年度より微増にとどまりましたが、地域の医療機関からの多くの患者紹介をいただいたことにより、紹介率90.7%、逆紹介率120.4%と、ともに前年度実績を上回り計画値を達成しております。

地域連携パスにつきましては、県で開催される地域連携カンファレンスに参加したほか、連携医療機関との定期的な情報交換を行い地域連携パスの運用を推進し、こちらも前年度実績を上回り計画値を達成しております。

また、県が主導する三重県統一地域医療連携クリティカルパスを採用し、がん治療連携パスの運用を開始しています。

そのほかにも、がん相談の充実を図るため、令和3年度よりがん相談支援センターを設置し、所定の研修を修了した専任の相談員及び看護師による患者相談を開始しています。

以上のことから、年度計画を大幅に上回っているとし、法人の自己評価は5となっております。

続きまして、7ページをお願いいたします。

小項目3、災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力について御説明いたします。

令和2年3月に地域災害拠点病院の指定を受けたことを踏まえ、さらなる資機材の充実や緊急時連絡体制の強化に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、発熱者専用外来や抗体カクテル療法外来を設置するなど、桑名保健所や地域の医療機関と連携し、休日を含めた検査及び診療体制の整備を継続して行っています。

また、必要に応じて駐車場スペースを利用し、学校や介護施設等を対象とした集団PCR検査を実施しています。三重県より重点医療機関の指定を受けたことから、前年度に引き続き1病棟を感染症専用病棟に充て、専従の医師、看護師を配置して4月からの搬送を含む入院患者の受入れを行っています。

また、県からの派遣要請を受け、新型コロナウイルス感染症患者入院待機施設の立ち上

げ、運営のため、8月から9月にかけてDMA Tの派遣を行っています。

このほかにもコロナワクチン接種につきましては、5月24日より高齢者向け一般接種、8月1日より高齢者以外への一般接種を開始しています。

以上のことから、計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

以上が中項目1の説明となります。よろしくお願いいたします。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

それでは、ただいま事務局から説明がありました中項目につきまして、評価委員会としての評価に入ります。

業務実績に関する評価の基準に基づいて評価はしていただきまして、法人の自己評価と異なる場合は評価委員会としてのコメントをつけるということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初の小項目、医療の提供というのは中項目でした、1の重点的に取り組む医療の実施で、救急医療とか幾つかが計画値は下回っておるわけですが、周産期医療については計画値を上回ったというような実績でありまして、病院側の自己評価は3。

参考資料の2の1ページ目を見ていただきますと評価項目に基準が書いてありますが、3といたしますのは年度計画を順調に実施していると、そういう評価項目になります。2が年度計画を十分に実施できていないということですよ。4が年度計画を上回って、5が大幅に上回っているということになっております。

そんなことで、いかがでしょうか。1番目の重点的に取り組む医療の実施、自己評価は3ということですが、まずは何か御質問があればどうぞ遠慮なくしていただきたいと思います。御質問等はございませんでしょうか。

どうぞ、伊佐地先生。

**【伊佐地委員】** 救急なんですけれども、これは恐らくどこの病院もやっぱりコロナの影響で通常の救急というのは減っているんじゃないでしょうかね。なかなか評価するのは難しいですね、ここに関しましては。実際、基準がないもので。だけれども、令和2年度と比べると400人ぐらい増えているんですか。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** そうですね。救急に関しましては、断り例の多い月を見ても、うち5%ぐらいお断り例があるんですけれども、正直申し上げて。2月、3月、8月とかに5%以上断っているときがあるんですけれども、やはりコ

コロナ患者がER室に連なってきたりしますと、どうしても感染の関係からそれ以上キャパシティー的に取れないとか、そのようなこともありまして、救急患者自体も管内で減っている面もあるんですけれども、コロナの蔓延期のERの状況的にコロナ患者のCTRとかをしているときになかなか取りにくかったりとか、そのようなことがありまして、令和2年度からはちょっと増えているんですけれども、計画値には至らないというような状況がここにあると思います。

【伊佐地委員】　そもそもコロナの関係が分からないので計画値は、立てたときにはコロナは収まっておるやろうと思ったんじゃない？

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】　実は計画値を立てるときに、令和3年度は幹部のほうだけで立てておりまして、事務局とか。それで……。

【伊佐地委員】　かなり多めとかに。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】　ちょっと欲張った感じやったというあれがあったんですけれども、令和4年度からはトップダウンではなく部署ごとに各部署の部長が考えて、師長とか部長とかを中心に考えてボトムアップに計画値を上げるように変更しておりまして、そのようなことが例えば循環器が計画値が1,590という、ものすごい数を計画値にしてしまって、令和2年度よりは循環器疾患が増えているのにちゃんとやっていないみたいな感じになっているんですけれども、計画値の立て方を令和4年度からボトムアップ形式に変更させていただいたという改善点がありますので、そこを斟酌していただければ。ちょっと3は甘いのかもしれませんけれども。

【伊佐地委員】　だから、これはなかなか難しいですよ。元々、計画を立てにくいコロナの影響であって、どこを基準にするかということになりますので、私の個人的な意見だと頑張ってみえるなと思いますよね、重点的に取り組むところは。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】　あと、もう一点言わせてもらおうと、コロナの8月と2月、3月のときは不要不急な手術とか診療を延期していたんですけれども、その中でも輪番の救急車だけは絶対取るようにというようなことで、クラスターを起こして御迷惑をおかけした3月も病棟閉鎖になったとかはあるんですけれども、輪番の救急だけは何とか維持したいということで頑張っておりましたので、御迷惑をおかけしたことはあるんですけれども、そのところは評価していただければというふうに思っております。

【豊田委員長】　ほかに御質問ございませんでしょうか。



西村先生、いかがですか。

最初の小項目につきましては、多分、コロナの影響を、評価にするときにそれを勘案して評価するのか、コロナは無視して計画値を達成したかどうかということだけでぱっと判断するのかという、そういう議論もあると思うんですが、いかがでしょうか。

【西村委員】 コロナを無視するのは本当に気の毒やなと思うんですが、救急車搬送患者の受入れ数、それから、循環器・消化器・分娩件数、この4つについては計画値には達していないものの令和2年度の実績値を上回っているということで、順調に戻しているというふうに解釈してもいいんじゃないかと思っています。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

年度計画を順調に実施していると、順調にという言葉の解釈になるわけですけど。

【西村委員】 難しいですね、これは。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、永藤委員、何かございますか。

【永藤委員】 先ほどもおっしゃられたように、前年度の実績は上回っておりますけれども、計画はもともとコロナはないということで立てられたということなので、かなり高い目標になっておりますので、それを除けば順調に推移しているのではないかと思います。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、前年度の実績よりも上昇している項目は多いといいますか、ほとんど上昇しておるということを考えまして、そしてまた、コロナの影響ということもあるわけですが、順調に実施しておられるというふうに評価委員会のほうも判断させていただきたいと思えます。

じゃ、これは自己評価どおり3ということで、評価委員会の評価とさせていただきます。

次の小項目、地域医療連携の推進ということで、自己評価は5となっておりますが、いかがでしょうか。御質問ございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 紹介率も逆紹介率も非常によくなっています、具体的にどこをどうしたから上がったとか、その辺りはどうなんですかね。かなり意識されたとか、あるいは僕も知らなかった松阪市民、僕、久しぶりにいわゆる大学病院を離れて行ったら、外科部長が今から開業医の先生の挨拶回りに行ってくるって言っていたんですけど、そのような努力とかをされたんですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 地域連携室はよく地域の診療所の先生方

と会議して密に関係性を保っているとは思いますが、でも、それはどこの病院でもやっていらっしやると思います。

あと、逆紹介が上がっていることに関しては、辞められた先生とかが正直に申し上げると割とたくさん患者を持っていらっしやって、代わりの先生は来ていただいておりますけど、例えば泌尿器とかが昨年12月に1人医長の先生が退職されて、それで逆紹介を。ほぼ6か月間おられない期間ができるものですから、そういう理由があって逆紹介が増えて、逆に地域の診療所の先生に御迷惑をかけた面があるかと思います。

紹介率に関しては、やはり厚生労働省の指導の充実といいますか、そういうことを医師会の先生方にもかなり協力していただいて紹介状を後づけでもたくさん書いていただくとか、医師会の先生方の努力のおかげでそういうことをしていただいているというように聞いておりますので、そういうことで上昇があるのではないかなというふうに考えておるんですけれども。

【伊佐地委員】 いずれにしても、年次推移で見るとすごく大きいですね。平成30年度、このときから比べたらむちゃくちゃ、47、53が83、110になって、今回90、120ですから、確かにすばらしいことだと、そう思います。

【豊田委員長】 すごい上昇率です。

医師会の先生方も何か御協力されたとかということがあるんでしょうかね。

【西村委員】 助けていただくことのほうが多かったです。ありがとうございます。

【豊田委員長】 そうしましたら、自己評価は5ですけれども、評価委員会はどうしましょうか。5でよろしいですか。一昨年から比べるとすごい上昇率になりますもので、そして、逆紹介率はそういう理由もあったということですが、紹介率が90.7%で非常に高い値ですので、大幅に上回って実施していると判断して……。

【伊佐地委員】 来年度が辛いですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですね。

【豊田委員長】 来年度が落ちないようにするのが大変だと思います。

【伊佐地委員】 来年度、これを維持したら3になるわけですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですね。また頑張ります。

【豊田委員長】 それでは、3番目の災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力ということで、まさに新型コロナウイルス感染症に対する取組、御協力されたということですが、自己評価は4ということですが、いかがでしょうか。何か御質問等はござい

ませんでしょうか。

昨年の8月から9月にかけてDMATの派遣、これは具体的に言うとどういう作業のために何人ぐらいのチーム、どういう構成のチームを派遣されたのか、その辺、もうちょっと詳しく教えていただけませんか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 四日市の当時酸素ステーションと言っていたところにDMATのドクターとナースと事務の方を3つ組で派遣して、それで、延べ何人ぐらいやったですかね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 延べですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 延べだと、大体何セットぐらい。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 年度で30人ぐらいやったと思います。どうですかね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 じゃ、1か月ぐらい行っていたんですね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうですね。単発で行っていますので、曜日を決めて。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 1か月ぐらい、それぐらい派遣していただいて、四日市地区の、僕らも正直、桑名から四日市へ回る患者がたくさんいて、御迷惑もおかけしたものですから、そちらのほうに出さないわけにはいきませんし、そういうことで1か月ぐらい脳外の先生とかが中心になっちゃうんですけれども、派遣させていただいたという経緯があります。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、御質問ございませんでしょうか。

自己評価は4の年度計画を上回って実施しているとされておりますが、評価委員会の評価は4でよろしいでしょうか。

【伊佐地委員】 はい。

【豊田委員長】 では、4ということにさせていただきます。

では、事務局から、次の説明をお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、8ページをお願いいたします。

中項目の2、医療水準の向上について、順に御説明いたします。

まず、小項目1、高度・専門医療への取組です。

地域の中核病院として、循環器センター、消化器センター及び脳卒中センターの各セン

ターを継続的に運用しています。また、摂食嚥下サポートチーム及び呼吸ケアサポートチームなど、多職種によるチーム医療の提供に取り組んでいます。

以上のことから、計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目2、医師の確保について御説明いたします。

令和4年度内にロボット支援下手術を開始するため、内視鏡手術用支援機器ダヴィンチの導入に向け準備に着手しています。

また、医師の業務負担軽減の一環として、看護師や薬剤師などの医療技術職による診療補助や、医師、事務、作業補助者による症例登録業務の拡充を行っています。

その他にも、医師の不足する診療科については、大学等関係機関と連携し医師の確保に努めています。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

次に、小項目の3、研修医の受入れ及び育成について御説明いたします。

令和3年度は、12人の初期研修医とマッチングすることができ、フルマッチングしております。また、フルマッチングが継続できていることから、令和5年度から初期研修医の受入れ枠2名増が認められております。

専攻医については13人を確保し、計画値を達成しております。

以上のことから、計画を大幅に上回って実施しているとし、法人の自己評価は5となっております。

小項目4、看護師の確保及び定着について御説明いたします。

看護師については、感染防止のための教育実習の実施などに制約が生じましたが、関係教育機関との連携を図り新入職員の確保に取り組み、令和3年4月には49人の看護師、助産師を採用しております。

また、介護福祉士の夜間配置を継続的に実施したほか、看護師業務の一部を薬剤師や臨床工学技士に移行することにより、看護師の業務負担の軽減を図っています。

常勤看護師の離職率は9.1%となり、目安である10%以下に抑えることができております。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているとし、法人の自己評価は4となっております。

ここまでが中項目2の説明となります。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、中項目2の1、高度・専門医療への取組、8ページからとなっていますので、これが年度計画が文章で書いてあって、数値的には書かれていない項目となります。

いかがでしょうか。御質問は何かございませんでしょうか。

【永藤委員】 今のところなんですけど、具体的にどのようなことをされた結果なのかというのを、少し文章では分かりにくいので説明をしていただけると助かります。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 例えば循環器センターと書いてありますけれども、循環器であればうちはホットラインというのを持っています、診療所の先生から直接循環器の専門医が携帯を持っていますダイレクトコールで患者の状態を相談して、それならすぐ送ってくださいというようなことは24時間できております。

あと、脳卒中も同等で、脳卒中もドクターからもかかるんですけども、救急車の救急隊員から脳神経内科か脳神経外科の専門医に直接お電話が入って、それで状態を教えてこちらの準備をしてERへ来るというような状況ができておまして、ホットラインを持っているこの2科というのは、うちの救急医療においては非常に頑張っているかと病院長としても思うわけですけども。

あとは、やはり多職種とのチーム医療が進んでおまして、人工呼吸器の患者に対してはRSTといたしまして、看護師さんとかMEさんとか、あと、呼吸器外科の先生とかがチームを組んでHCUのレスピを調整したりとか、ほかにも栄養のサポートとか、どこの病院でもあるかもしれませんが、褥瘡とか、ICTのラウンドとか、そのような多職種で動いておるのが実情です。

【豊田委員長】 先ほどの御質問の趣旨からいきますと、年度計画、中期計画と全く同じことが書かれていますね。なので、やはり年度計画は具体的にお書きいただいて、計画を達成できたのかできなかったのかが評価者に判断できるような年度計画をお書きいただきたいと、そういう御趣旨だと思います。

【永藤委員】 そうです。同じことを思っていました。

【豊田委員長】 なので、評価委員会のコメントにそれを今回書かせていただいたらどうかなと思いますけど。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 分かりました。

【豊田委員長】 具体性がないので、評価するほうも達成できたのかどうかよく分から

ないということに。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 何でみたいな。

【豊田委員長】 できれば数値があれば分かりやすいし、数値でなくても達成できたのかどうか分かるような記述にさせていただきたいということですよね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 了解しました。

【豊田委員長】 お話を伺うと、でも、順調に実施しているというふうに判断させてもらってよろしいでしょうかね。

じゃ、評価委員会の評価は自己評価どおり3ということにさせていただきますが、コメントは先ほどのコメントを書かせていただくということにいたします。

次の医師の確保、自己評価が4となっておりますが、御質問ございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 医師事務作業補助者、拡充というか、もうちょっと具体的にどれぐらい前年度より増えたとか、そういったところを入れていただいたほうが。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 医師事務補助作業の管理加算というのがありまして、15対1で取れていると思うんですけども。

【伊佐地委員】 15対1だと多いですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 はい、一番多い……。

【伊佐地委員】 大学はいまだに80と違うか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そんなことはないですよ。

【伊佐地委員】 いや、かなり悪いですよ。やっと50ぐらいになったのか。

【新山（桑名市総合医療センター医事課長）】 今28人でチームをやっておるんですけども、年度が変わります4月から加算1に上げることができましたので、その準備をしてきたということと、あとは、コロナに対して症例登録をすとか、そういう辺りドクターの負担にならないように、人数だけでなく内容の面でカバーをさせていただいたという状況でございます。

【伊佐地委員】 だから、15対1とか、そういうことを具体的に。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 これは医師15人に1人いるという意味でいいですかね。

【伊佐地委員】 計算方法がありました、たしか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 28人いるんですけど、病院全体で28人。

【伊佐地委員】 何か計算方法があるんです。医師じゃないみたいですね。

【豊田委員長】 その数は、前の年とか一昨年に比べて増えたんですか。

【伊佐地委員】 それを書いてほしいなと思いました。

【新山（桑名市総合医療センター医事課長）】 人数的には変えてはいないんですけど、内容的にやれる範囲を拡充させていただいたということですが。

【伊佐地委員】 そういうふうに書いていただければいいですね。

【豊田委員長】 ほかは御質問ございませんでしょうか。

それと、医師の不足している診療科というのは、先ほど院長がおっしゃっていた泌尿器科とかということになるのでしょうか。医師の確保はちゃんとできたのでしょうか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 こちらのほうは竹田理事長に頑張っていたかきまして、ダヴィンチを入れるということであればそれなりの人ということで、4月に2人常勤に来ていただけるようになりまして、それで、秋ぐらいには前立腺の手術が始められるというふうに思います。

【豊田委員長】 そうか、今まではお一人だったのが2人になったということですかね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 はい。今までは1人だったから、前立腺がんは全部、正直言うと川を越えていっちゃっていたという状況で。それが井上教授のあれで秋にまた1人来てそういう体制になりますので、ロボットサージェリーをやっている先生が来ていただきまして、それで、桑名市の市民も近くで前立腺がんの手術が受けられるというような状況になります。

【豊田委員長】 泌尿器科、ダヴィンチを本当によく使う診療科でありますので。そして、もうダヴィンチは購入されたんですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 桑名市の市のほうに頑張っていたかきまして、管理部長がちょっと。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 独法ですから長期債務は組めませんので、市で病院事業債を今年度5億起こしまして、ダヴィンチの本体は納品をしてもらいました。あと、周辺機器を7月8月ぐらいには入ってくると思っているんですけども、できるだけ早く整備して、先ほど委員長申し上げましたように、前立腺がんはできるようにしていきたいと考えております。

【豊田委員長】 そのおかげで泌尿器科医は1人から3人に増えると。

【伊佐地委員】 今、泌尿器科医は人気で専攻医は増えていますもんね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうなんですよ。

【伊佐地委員】 増えていますよ。だから、先生のほうでもかなり。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 ロボットの壁が低いみたいですね。

【伊佐地委員】 外科は増えていないでしょう。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 壁の問題だと思いますね。

【伊佐地委員】 あれ、確かに、できるか、問題です。

【豊田委員長】 そうですか。婦人科もロボットを使いますので。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 敷居が低いですよ。

【豊田委員長】 低いです。

【伊佐地委員】 外科は高いんです。何とかしてください。

【豊田委員長】 ほかはよろしいでしょうか。

そうしましたら、自己評価は4ですが、どうでしょうか、4でよろしいでしょうか。

では、評価委員会の評価は4とさせていただきます。

そして、研修医の受入れ及び育成のほう、これも頑張ってくださいまして、また、専攻医というか、研修医の受入れ枠を増やしていただけるということですかね。

【伊佐地委員】 14になったの。13でしたっけ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 今12なので。

【伊佐地委員】 増えるんですね、たしか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 委員長が白石先生でいらっしゃって。

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 来年度から14名に増えるということで、県下でいいますと研修医の枠の定員数ですけども、四日市市民、伊勢日赤に次いで3番目、大学も抜いて3番目という、病床数からしても多くを受け入れるようになってきています。

【豊田委員長】 分かりました。

【伊佐地委員】 追加でいいですか。

私の目から見ると、専攻医が残っているのが非常にいいですよ。12人に対して13人って増えていますからね。松阪市民は全然駄目ですよ。全部外へ行っちゃう。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 外科系は少ないんですけども。

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 呼吸器内科も駄目？

【伊佐地委員】 呼吸器、少ないですよ。松阪市民はたくさん研修医は来るんだけど、



専攻医として残らない。先生のところは残っているから、松阪市民は考え直さない。ただ、来ている人は三重大学はほとんどいない。外ばっかなんです。だから、僕もあんまり楽しくないんですよ。

【豊田委員長】 ほかは御質問ございませんでしょうか。

じゃ、よろしいですか。

評価ですが、自己評価は5となっておりますが、評価委員会の評価、どうでしょうか。5でいいですかね。研修医の受入れ枠を増やしていただくというのは、これはかなり大変なことなので、素晴らしいと思います。評価委員会の評価も5とさせていただきます。

それから、次が看護師の確保及び定着ですね。

【伊佐地委員】 質問、いいですか。

大学病院ですと、増加した人、確かにそこだけ見ているとあれなんですけど、離職するとプラスマイナス何人だったんですか。そこを教えてくださいませんか。49人入って、辞めた人が何人か。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 10人ぐらいのプラス……。

【伊佐地委員】 プラス10ですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 プラス10ぐらいですね。

【豊田委員長】 今日、机上配付した資料に回答いただいております。

【伊佐地委員】 そののところ、どうなのかという。大学も先生、65人入って喜んでいたら60人辞めていますから、結局プラス5って。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 あと、ちょっと自慢なのは、コロナ病棟でコロナを理由に辞めた看護師がいなくて、そのところは看護部のマネジメントが、聞き取り等がうまくいっているんじゃないかなというふうに思っているんですけども。

【伊佐地委員】 離職率が減ったというのも大きいですね。10から9.1%に減ったと。

【豊田委員長】 それから、質問ですが、看護師業務の一部を薬剤師や臨床工学技士に移行することによりと書いてありますが、具体的にはどういう業務を薬剤師さんとか臨床工学技士に移行したんでしょうか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 病棟の持参薬の管理とか、そういうのを病棟の薬剤師が。昔、看護師さんが一個一個数えて玉をそろえていたんですけど、そういったものを薬剤師さんが整理して電カルに記入して、それで、この薬はこういう注意があ

るよというようなことを医師にも教えてくれるという病棟薬剤師の加算が取れているんですけれども、そういうことができているということがあります。

あとは、看護師の業務の補助加算というのが、御存じかと思いますが、あるんですけれども、それもたしか夜間の部分も含めて取れていると思いますので、看護補助者の配置とかもできているかなと思うんですけれども。

【豊田委員長】 ありがとう。

ほかはよろしいでしょうか。

自己評価は4ですが、評価委員会の評価は。

【伊佐地委員】 4でいいと思います。

【豊田委員長】 4でよろしいでしょうか。

では、評価委員会の評価は4とさせていただきます。

では、次の説明を事務局からお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、11ページをお願いいたします。

中項目の3、患者サービスの一層の向上について御説明いたします。

まず、小項目1、診察待ち時間等の改善について御説明いたします。

地域の医療機関との役割分担を行い外来患者の逆紹介を推進したほか、各診療科において予約制を導入し、待ち時間の短縮を図っております。

また、外来患者の院内滞在時間については毎週1回実測調査を行っており、外来患者数は前年度よりも増加したものの、滞在時間は前年度並みとなっております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目2、院内環境の改善について御説明いたします。

令和3年度は、感染防止のためボランティア活動を休止しましたが、5月より患者や御家族からの様々な御意見や御要望をお伺いし、医療職との橋渡しを行うための相談支援員を配置しています。

令和4年1月よりオンライン資格確認端末を総合受付や救急外来などに計4台設置し、マイナンバーカードを利用した医療保険のオンライン資格確認を開始しています。

そのほかには、感染症対策として、前年度に引き続きサーモグラフィーを活用した病院出入口にて体温チェックを継続し、各受付窓口での来院者の体調確認を徹底しています。

また、入院が決定した患者の入院前説明や各種手続を円滑に行うため、令和4年度に入

院支援センターを開設することとし、準備に着手しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施していると、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目3、職員の接遇の向上について御説明いたします。

院内の投書箱やホームページ等からの患者の意見については接遇・患者アメニティー委員会にて内容を検討し必要な対策を実施するとともに、回答を院内に提示しております。

また、接遇研修会については、感染症の流行等を踏まえ開催を延期しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施していると、法人の自己評価は3となっております。

ここまでが中項目の3になります。よろしくお願いいたします。

**【豊田委員長】** それでは、11ページの患者サービスの一層の向上、中項目の1、診療待ち時間等の改善、これは毎年1回調べているということですが、御質問ございませんでしょうか。

平成30年度にやって、その後、ちょうど10分前後改善したわけですが、それ以後、変わっていないわけですが、努力したらもうちょっと短くできるのか、これ以上短くするのはなかなか難しいことなのか、この辺のお考えはどうでしょうか。

**【新山（桑名市総合医療センター医事課長）】** 令和3年度は少し延びておるんですけども、特別外来といいまして、発熱者、一旦診察室へ行って熱があった方は戻して、というのもありましたので、この辺りで少し増えている状況はございました。

少し短くできるかどうかというところは、やはり紹介、逆紹介を推進しまして、外来患者数が少しでも少なくなると短くなっていくかなとは思われます。

**【伊佐地委員】** 院内滞在時間、どうやって、アンケートだから、病院へ入ってから帰るまでの時間をそれぞれ答えたという。

**【新山（桑名市総合医療センター医事課長）】** こちらは受付機に診察券を通した時点がスタートになります。最後、会計が終わったときが終了になりますので、機械上で。

**【伊佐地委員】** 患者層は、新患と再来がみえますよね。その比率というのは大体いつも一緒なんですか。新患が多くなれば当然長くかかりますよね。そこのところの取り方がどうかなというところ、再来の人ばっか診ればすごい短くなるんです。

**【新山（桑名市総合医療センター医事課長）】** 令和2年度と3年度、初診と再診はほぼ変わらないですね。

【豊田委員長】 あと、よろしいでしょうか。

自己評価は3となっておりますが、いかがでしょうか。3でよろしいでしょうか。

じゃ、評価委員会の評価も3とさせていただきます。

次の小項目、院内環境の改善ということで、いかがでしょうか。御質問ございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 よろしいですか。

入院支援センターというのは、具体的にはもう既にされていると思うんだけど、それをさらに1人1か所にまとめてやるというような準備をされていると。具体的にはどこかスペースをつくられてということですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 病院の3階のところにスペースをつくりまして、事務員さんとか、薬剤師さんとか、栄養士さんとか、そういう方がワンストップで行けるように、入院の書類とか、説明とか、個室がどうかというのを説明させていただいて、個別にやっていたものをまとめてやらせていただいで、多分、多くの病院でやっているんじゃないかと思うんですけど、うちはまだ退院のほうまでは行けていないんですけども。

【伊佐地委員】 もう具体的にされているって、場所を？

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうです。今年の6月からさせていただいてまして、その準備を令和3年にして……。

【伊佐地委員】 3年度はしているということですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 専任の者を張りつけたという。

【伊佐地委員】 もしこれができていたら評価4でもいいのかなと思ったんですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 令和3年にはできていなかったんですけど。

【伊佐地委員】 来年度は活動しているとなるわけですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうです、おっしゃるとおり、ありがとうございます。

【豊田委員長】 あと、御質問、よろしいでしょうか。

じゃ、自己評価は3ですが、先ほどの一言で評価委員会の評価も3ということでよろしいですか。

【伊佐地委員】 これがもしも活動していれば4に近いから。

【豊田委員長】 じゃ、3にさせていただきます。

次は、職員の接遇の向上ですね。

接遇研修会なんかは感染症の流行等を踏まえ開催延期したということなんですが、評価はどうでしょうか。御質問ございませんでしょうか。接遇ですね。

でも、最初のあれと一緒に、コロナの影響で開催できない場合に評価点を下げるのか、そのままにするのかという、難しい判断がありますけれども。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 これ、実は去年一番悪かったんです、うちの評価として。評価委員会からいただいた項目も2で、何が悪かったかって、やっぱり患者様からの声からも苦情が大変多いところが2か所ありまして、そこを配置換えをしたりして、法人としてはその苦情は減ったということで、今回自己評価3にさせていただきます。去年も本当にこれはさんざんで、ここで。

【豊田委員長】 そうだったか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 はい。

【伊佐地委員】 覚えがなかったです。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうですか。本当に特定の人についていくような苦情だったのでその職員を配置換えして、あまり患者の前に立たないように配置換えをしたりしてですね、苦情の全体数を減らしたということで評価を3にさせていただきますと、そういう経過になります。

【豊田委員長】 昨年の指摘事項を伝えて下げたと。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 一番苦しかったところです。

【豊田委員長】 そういうことですね。なかなか、公式の文書として書きづらいことでもあります。

【伊佐地委員】 公ですもんね。

【豊田委員長】 そのようなことが昨年の指摘を改善されたということですので、評価委員会の評価は3でよろしいでしょうかね。

では、3とさせていただきます。

では、また事務局から説明をお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 それでは、13ページをお願いいたします。

中項目の4、安心して信頼できる質の高い医療の提供について、順に御説明いたします。

まず、小項目1、医療安全対策の徹底。

医療安全対策については、医療安全管理委員会を中心に医療機器安全管理委員会、医薬品安心管理委員会、リスクマネージャー部会などで各分野の医療安全対策を検討し、継続的に現場へフィードバックしています。

また、B・C型肝炎陽性患者について、消化器内科に受診歴がないかをリストアップし、受診勧奨を行う取組を開始しています。

感染対策については、ICT感染対策チームが中心となり院内ラウンドを行い、職員の感染予防の知識や技術の向上を図ったり、地域の医療機関と定期的なカンファレンスや相互評価を行ったりしています。

また、全職員を対象とした医療安全研修会及び感染対策研修会をオンラインで開催し、職員間での情報、知識の共有及び標準化を図っています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目2、信頼される医療の提供について御説明いたします。

14ページをお願いします。

患者及びその家族に対し十分な説明の下、治療への同意を得ることを徹底し、セカンドオピニオンについては運用手順を定め病院ホームページに公開しています。

また、診療録等の個人情報の保護や患者及びその家族への情報開示については、適切な取扱いを行っています。

そのほかには、病院ホームページにてレベル別、内容別にヒヤリ・ハット件数の公開を行っています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目の3、施設設備の整備及び更新について御説明いたします。

15ページをお願いいたします。

令和3年5月31日をもって末広駐車場の営業が終了したことで提携駐車場はなくなりましたが、既存棟跡地に平面駐車場及び駐輪場を整備し、令和2年8月より供用を開始していることもあり、病院駐車場のみで大きな渋滞なく安定的に運用しております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、小項目4、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等について御説明いたしま

す。

感染症防止のため、市民公開講座、患者向け教室は中止しましたが、11月の糖尿病週間にポスターや案内モニターを用いた情報発信や、桑名市総合医療センターニュース、桑名市広報への毎月の記事掲載等で各種疾病や感染症の説明などを行い、市民への医療や健康に対する意識の啓発に努めています。

また、外部講師として、医師が地域の小学校3校においてがん教育を実施しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が中項目4の説明となります。よろしくお願いいたします。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

それでは、13ページ、中項目、安心して信頼できる質の高い医療の提供の小項目の1、医療安全対策の徹底ですが、いかがでしょうか。

**【伊佐地委員】** オンラインで開催というと、職員が何人入ってちゃんと聞いているのかとか、オンラインだと入った人は分かるか。確認のテストとか、そんなのはしているんですか。されているんですね。だったら大丈夫ですね。

**【豊田委員長】** ICTは新型コロナ対策には関わっているのかいないのか、その辺はどうなんですか。

**【登内（桑名市総合医療センター病院長）】** もちろん中心的な寄与をしていただいています。内科の副院長先生が委員長で、認定の看護師が1人来まして、ほかの看護師さんもチームに入ってもらっています。活発に活動して何か起きた部署に、感染が起きた部署にすぐ行っていただい上に報告して指示を出すと、こういうようなシステムが確立しています。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

ほか、御質問はございませんでしょうか。

それでは、自己評価は3ですが、評価委員会の評価は3でよろしいでしょうか。

では、評価委員会の評価は3とさせていただきます。

次の小項目、信頼される医療の提供ということで、セカンドオピニオン等ですね。ヒヤリ・ハット件数の公開を行っておられるということなんですが、御質問ございませんでしょうか。

**【伊佐地委員】** ちょっといいですか。

セカンドオピニオンは公開して、実際には運用はどうなんですか。かなり多いのかどうかですが。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 これはがん診療連携拠点病院を令和3年を取るために、本年度から取れたんですけれども、準備したもので、まだ日が浅いもので……。

【伊佐地委員】 まだ周知が行っていない、これからですね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 多分、うちの病院自身でやったのは本当にまだ一、二例ぐらいじゃないかと思ひまして。ただ、ちゃんと順には、廊下に掲示をして、ホームページにも出しております。

【豊田委員長】 ほか、御質問、よろしいでしょうか。

そうしましたら、評価のほう、自己評価どおり3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

次の小項目3、施設設備の整備及び更新でございます。駐車場のことも書いてありますが、これは提携駐車場が終了したんですけども、現状の病院駐車場のみでうまく回せることができたという、そういうことですかね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 末広駐車場というのは市営の駐車場が病院の近くにありまして、病院として駐車場が足りないということでそこを借りていたんですけど、市がこの駐車場の供用を廃止しまして、今、マンションを建てようという感じになっています。

それと同時並行で、昔、旧山本病院の病棟が建っていたところを平面駐車場にして今運用していますので、外来患者さんが減ったということもありまして、それほど大きな渋滞はしていないんですけども、ただ、雨の日なんかはちょっと前の道が狭いものですから結構ばたばたはしているんですが、今のところ、駐車場もこれ以上増やす予定はありませんので、何とかこの状態で運用していきたいと、そういうふうに考えております。

【豊田委員長】 先ほどの院内の外来患者さんの滞在時間をもうちょっと短くすれば、駐車場もうまく回るようになるかもしれませんね。

御質問、御意見ございませんでしょうか。

では、この評価は自己評価どおり3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

次が市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等。新型コロナでなかなか対面での普及



啓発活動が中止になっているんですが、それに代わってというか、以外のことでそれなりの御努力をしておられるように見受けられますが、御質問、御意見ございませんでしょうか。

小学校におけるがん教育というのは、具体的に小学生にどういうがんのことを教えるんですか？

【白石（桑名市総合医療センター副理事長）】 実際には私が3つの小学校に行ったんですけれども、それこそ桑名市の教育委員会のほうと協力していただきまして、それが間に入っていただいて、手上げ方式で3つの小学校からありました。そこで、それこそがんについてどういうものかということと、それから、がんを予防するような生活にしていこうこと、それから、がん検診の重要性、そういうことについて、小学生に分かっていただくように話をしたということになります。

やはり小学生ですので、例えば、がんの実物の写真を示すときにあらかじめ断りを入れて出すとか、あるいは家族の中にがん患者さんがいたりしないか、特に両親とか若い世代ということ、いろいろ配慮する点はあったんですけれども、教育委員会のほうもその辺りも協力していただきまして、比較的スムーズにいったという話であります。今年は2つの小学校と1つの中学校で続けていこうというふうになっています。

【豊田委員長】 小学生にがんの話、難しいと思うんですけれども、なかなかいい取組かなというふうに思いました。

ほか、御質問ございませんでしょうか。

では、この評価、自己評価が3ですが、評価委員会も3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

では、次は、事務局から説明、お願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 大項目の第2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置について、中項目ごとに順次御説明いたします。

まず、中項目の1、適切かつ弾力的な人員配置について。

医師をはじめとする各職種において、必要に応じて常勤嘱託や短時間勤務を取り入れ、効率的な業務運営を図っています。

また、令和3年4月より働き方改革関連法に基づき、常勤嘱託職員及び臨時職員の給与体系の見直しを行っております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっ

ております。

続いて、中項目の2、職員の職務能力の向上について御説明いたします。

医師をはじめとする各職種において、三重大学医学部附属病院との人事交流を行っております。また、事務部門では、県内他病院との情報交換や研修会を実施しているほか、三重県厚生農業協同組合連合会との間で事務職員の人事交流に関する協定を締結しております。

そのほかには、職員に対して学会や研修への参加と職務上必要な資格の取得を促すため、必要経費の負担等の支援を継続しました。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、中項目の3、職員の就労環境の整備について。

働き方改革関連法の施行に伴い、業務の効率化や業務分掌の見直しを行い、有給休暇年5日の確実な取得や時間外労働時間の削減に取り組み、職員1人当たりの時間外労働時間は9.4時間となり、昨年度の10.1時間から7%の削減となっております。

また、前年度に引き続き、院外の臨床心理士に業務委託し、職員が無料でメンタルヘルズ相談を受けられる制度の運用を行うとともに、院内保育所にて病児・病後児保育を開始するなど、職員の働きやすい就労環境の整備に努めています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

次に、中項目4、効率的な業務体制の推進と改善。

院内ホームページを活用し、病院経営に係る課題や経営状況等の様々な情報を掲載し情報共有するとともに、職員が業務改善案を自由に書き込むことができる職員御意見箱の機能を追加し、継続的な業務改善に努めています。

また、令和4年度の年度計画及び予算の作成に当たり、経営幹部による診療科ヒアリングを実施し、診療科ごとの数値目標を設定しています。

また、令和4年3月30日には、三重大学、桑名市、桑名市総合医療センターにて新しい未来の共創に関する協定を締結し、AIを活用した診断支援など、医療、健診、予防などの領域でデジタルトランスフォーメーション化を推進することとしております。

なお、公益財団法人日本医療機能評価機構による第三者評価につきましては、令和5年度に受審することとして準備に着手しております。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

19ページをお願いいたします。

中項目の5、収入の確保について。

令和3年度の医業収益は115億7,500万円となり、前年度実績を上回り、予算計画を上回っております。

また、ベッドコントロールチームを中心として、適切かつ効率的な病床運用に努め病床稼働率の向上を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により新入院患者数、病床稼働率ともに計画値を下回っております。

しかしながら、1人1日当たりの入院収益及び外来収益については、集中治療室の稼働率の上昇や中等症以上の新型コロナウイルス患者の入院受入れ、外来化学療法が増加に伴いともに増加し、計画値を達成しています。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

20ページをお願いいたします。

続いて、中項目の6、支出の節減について。

令和3年度の医業費用は132億2,100万円となり、前年度実績を上回っています。薬品費については、抗がん剤の使用量の増加及び高額化に伴い前年度を上回ったものの、対医業収益比率では予算計画内に収まっています。

また、診療材料費については、ベンチマーク分析を継続し購入価格の削減に努め、対医業収益比率において予算計画内となっております。

後発医薬品使用率は、数量ベースで90%以上となり、計画値を達成しています。

給与費につきましては前年度より支給額が増加しており、対医業収益比率については、医業収益が増加したことから前年度を下回ったものの、予算計画値に至っておりません。

以上のことから、おおむね計画を順調に実施しているとし、法人の自己評価は3となっております。

以上が大項目2の報告でございます。よろしくをお願いいたします。

**【豊田委員長】** ありがとうございました。

大項目2ということで、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置ということですね。中項目全て説明していただきました。

そうしましたら、16ページ、適切かつ弾力的な人員配置ということですが、御質問、御意見ございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 働き方改革法に基づき、常勤嘱託職員、臨時職員の給与体系というのも、僕も具体的にどんなことなのかよく知らないんですけど、どういうことなんですか。

【豊田委員長】 例えば嘱託職員でなおかつ常勤。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 これは医師ではなくて医師以外の職種の人で、今まで昇給させていなかったんですけど、法改正に伴って昇給させるようにというのはありましたので、それをさせたということだけです。それほど大きな問題ではありません。

【豊田委員長】 医師とは違うわけですか、常勤嘱託職というのは。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 はい。

【豊田委員長】 自己評価は3となっておりますが、3でよろしいでしょうか。

じゃ、評価委員会の評価も3とさせていただきます。

次の職員の職務能力の向上、御質問ございませんでしょうか。

三重大さんとか、そのほか病院協会さんを介して人事交流を取っておられますが。

専門看護師、認定看護師の人数は、これは前年度とか前々年度に比べて増えているんですか、それとも変わっていませんか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 ほとんど変わっていないというのが実情で、育てるのに時間がかかったりしまして、実情はもっと増やしていただきたいんですけども、変わっていないというのがあります。

【豊田委員長】 了解です。

何か御質問ございませんでしょうか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 ただ、今年度のことになっちゃうんですけども、三重県立看護大学と三重大の認定看護師の教育課程の感染管理という部門と、あと、そこに特定区分の看護師も入るんですけども、教育のプロジェクトに参加して、今年のことになってしまうんですけども、今年の夏に1人、三重大と県立看護大学から派遣された看護師さんをそういう教育をするというプロジェクトに参加して、特定看護師さんとか、感染管理ができる認定看護師さんを北勢地区でも輩出できるように努力しようと思っています。

【豊田委員長】 ほかは、御質問、よろしいでしょうか。

では、自己評価3ですが、評価委員会の評価も3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

次の職員の就労環境の整備、働き方改革ですね。御質問何かございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 時間外というのは、医師も含めて、これは全部ですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうです。

【伊佐地委員】 医師も含めてということ、9.4時間なら、これは週ですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 月ですね。

【伊佐地委員】 月ですか、これは。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 医師はもうちょっと多いんじゃないかと思えますけれども、平均しちゃうとということ。

【豊田委員長】 伊佐地委員、医師の働き方改革、なかなか難しいというふうに思っているんだけど、特に大学病院が一番ひどいんじゃないかと思っていたんだけど。

【伊佐地委員】 退職してよかったです。頭が痛い。

【豊田委員長】 自治体病院のほうがまだやりやすいかもしれないね、大学病院とはね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 内輪では勤怠管理ができていなかったと。結局、初歩ができていなかったというのは、医師が打刻する習慣がなくて、来たらカードをピツとして、帰るときにピツとする習慣がなかったの、それをまず令和3年度にはやっていたくようにして、それで、ようやく勤怠管理ができたというところでして、またこれから当直問題とか、勤改センターとかと相談しなきゃいけないなというふうに思っていますけれども。

【豊田委員長】 勤怠管理を始めたというだけでも一歩前進ということですかね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 本当になかなかやっただけなくて。

【豊田委員長】 またそれから先が始まるので。

よろしいでしょうか。

では、自己評価が3ということですが、評価委員会も3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

次が効率的な業務体制の推進と改善というところですね。

御質問、御意見ございませんでしょうか。

【伊佐地委員】 三重大学との新しい未来の共創に関する協定、これは内容も私も大学にいたのである程度知っているんですけども、一般の人、見ても分かりますかね。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 書き方があれですけども。

【伊佐地委員】 もうちょっと具体的に。難しいですね。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 これは伊藤学長の三重大学の新しい方針ということで、地域医療を活性化させる、そのために大学は全面的に支援する、協力するという、そういうコンセプトです。

ですから、ここにはA Iを用いた遠隔画像診断などとなっていますけれども、実際は地域の診療連携、在宅医療とか、それから、あと、いろんな健康増進活動とか、そういうところにデジタルトランスフォーメーションを使ったいろんな新しい機器の開発を大学がしたいと、それをこちらで試してほしいと、そういうあれなんです。それにはベンチャーも入っているいろいろやっておくことは。

とにかくまず桑名地区でやってみて、それでうまくいったら県内のほかの地域、医療圏にも広げると。さらに、いいものは全国的に広げていきたいというのは、これは伊藤学長の夢でして、桑名地区はまず一番やりやすそうだからここからやろうというふうになったということです。

一応、4月から始まっていますけれども、定例に集まっているいろいろ検討会をやったり、いろんな企業の人と打合せしたりとか、そういうこともやっています、秋ぐらいにはもう少し具体的なものができると思いますし、それから、来年度の桑名市のあれですよ…。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 地方創生ですか。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 うん。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ちょっとまだ悩んでいます。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 一応、出そうかと……。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 地方創生の内閣府の事業がありますので、それに何か乗っけられないかと思っているんですけど、市のほうで地域再生計画をつくっていかないといけないので、まだ具体的にどうやっていこうかなというふうに思っているところですので、保健医療課のほうの協力が要るのかなというふうに思っています。

以上です。

【豊田委員長】 ほかに御質問ございませんか。

A Iを活用したデジタルトランスフォーメーション、大いに期待したいと思うんですけど、特に竹田先生の御専門の放射線なんかは画像診断とかで最も進んでいる診療科の1つ

だと思うんですけど、今、どんな状況なんですか、A Iを使った自動の画像診断の状況と  
か。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 実際、2社のソフトを今大学と桑名市総合医療センターで双方でやっています、まず、取りあえず胸部レントゲン写真のA I診断です。まだまだ未熟なところもあるんですけども、1つの会社のやつは、単純写真でちょっと、がん、本当にあるのかなど。普通にぱっと見たらみんな見逃してしまうところですよ。ところが、そこ、位置を拾ってきて少し行ったら腫瘍があったんです。もう一つは鎖骨の後ろですね。鎖骨の後ろというのはほとんど小さくて腫瘍は見えなかったんですけども、ただ、鎖骨の濃度が左右を比べたらちょっと白いんですね。ちょっと濃度が高くなっている。それをひっかけてここを見てくれと、ちゃんとあったという。これは行けるなとは思いますが、それ以外のやつはあんまり。たまにそういうやつがあるんです。

でも、全く、僕らは昔CADといたしまして、コンピューター・アシスト・ダイノシーと  
いうのをやっていたんですけど、それは本当に単純にコンピューターが何も学習せずに形式に調べてくる、牽引してくるだけなんですけれども、やっぱりある程度学習させると、  
そういう普通なら絶対分からないようなもので、しかも問題だったというのは拾ってくる  
だけの、そういうものができる可能性はありますね。そこまで向上する可能性は。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほかの御質問、よろしいでしょうか。

【永藤委員】 これのDX化に伴って設備投資とかお金がかかるというものは発生して  
いるんですか。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 いろんな機器の開発、例えばウォッチ型  
のような計測機器とか、あるいは在宅の患者さんたちは自分たちで血圧を測って、その値  
が自動的に病院に飛んでくるとか、そういうものの開発には費用がかかります。しかし、  
そこは大学のほうの、また、大学も文科省へいろんな予算請求していますので。あと、ベ  
ンチャーの企業との共同研究という形で。

ですから、研究開発に関しては大学のほうが文科省とか通産省に予算請求すると。こち  
らも桑名市と組んで、これは中村さんはちゃんとやってくれると思うんですけど、桑名市  
のほうの地方創生でいろいろ予算要求していこうかと。

【豊田委員長】 ほか、御質問、よろしいでしょうか。

では、自己評価は3ですが、評価委員会の評価は3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

次、19ページ、収入の確保ですが、いかがでしょうか。

【伊佐地委員】 医業収益って115億ですよ。これって、財務諸表のほうを見ると133億って書いていないですか。こっちの財務諸表か何かに書いていませんか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 これは医業収益だけですので、運営費負担金とかそんなのは入っていません。純粹に医業収益だけです。

【伊佐地委員】 医業収益だけで。130、あれはいろいろな補助金が入っておるわけですね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 補助金が入っていますので、運営費負担金とか。

【伊佐地委員】 分かりました。

【豊田委員長】 今回は運営費交付金だけじゃなくて、新型コロナの補助金も入っていますので。

いかがでしょうか。御質問、御意見などございませんでしょうか。

永藤さん、何かないです？

【永藤委員】 1人当たりの外来収益とか未収金、増えた理由がこちらに書いてあるんですけども、これは一時的なものなのか、こういうことが発生しているので今後を見据えてとかなんですけど。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 なるべく逆紹介は減らそうとしている病院なものですから、やはり残ってくる患者が濃い患者といいますか、化学療法とか、内視鏡やとか、そういうものからちょっとした処置するとか、例えば分子標的薬みたいな免疫系の薬を使うとかという患者が残ってきますので。やはり外来の人数は逆紹介を増やして外来の単価は増えていくという厚労省の方針もありますし、そういう方向にこれをそうなるんじゃないかと思っているんですけど。コロナだけじゃなくて、そういう方向性のものじゃないかと思っています。

【豊田委員長】 外来診療単価は結構上がっていますよね。

ほかは御質問、御意見ございませんでしょうか。

では、法人の評価が3ですが、評価委員会の評価、3でよろしいでしょうか。

では、3とさせていただきます。

次は、支出の節減ですが、支出の節減のほうはいかがでしょうか。



【伊佐地委員】 用語の問題、抗がん剤というんじゃなくて最近のがん薬物療法という  
ようなこと、正確に言うと。どちらかというと分子標的薬とか、こちらのほうがむちゃ高  
いので、抗がん剤というわけじゃないので、今はがん薬物療法と。

だから、分子標的薬は抗がん剤だけじゃないですね、ほかの疾患にも使える薬なので。  
がん薬物療法の使用。高い、乳がんなんかパージェタって最近出た、30万円ぐらい。H  
ER2のサンドイッチでやっていく。半年以上やるんですよ、また。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そうですね。うちは乳腺が増えているも  
のですから。

【豊田委員長】 あと、何か御質問ございませんでしょうか。

給与費、前年度よりかは給与費対医業収益比率も若干増えたということですが、平成3  
0年度からはかなり改善しているわけですね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ここは医業収益が上がっていますので。

【豊田委員長】 医業収益がぐっと上がったのでということですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ただ、経営サイドから見ても、もう少し下  
げたいと。

【伊佐地委員】 64%あったんですかね。

【豊田委員長】 そうそう。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 五十六、七ぐらいでやっていけるともう少  
し楽になるんですけど。

【豊田委員長】 よろしいですか。

【永藤委員】 今のお話で、下げるための施策とか…

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 医業収益を上げる、それだけです。

【永藤委員】 医業収益をとにかく上げる。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 当院、医師とか看護師の給与費、そう高く  
ないものですから……。

【伊佐地委員】 高くないか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 高くないんです。ほかの例えば県立総合医  
療センターさんとかと比べても高くないので、やはりその給与の見直しを高めにしなきゃ  
いけないと思っているんですけども、そのためにはやっぱり医業収益を上げていかないと  
この率は上がっていくばかりなので、何とかいつも理事長や院長に怒られながら57

ぐらいにしてほしいって理事会でいつも言っているんですけど、もう少しだろうと思っています。

【伊佐地委員】 上がるとしたら給料を上げなくちゃいけない。

【豊田委員長】 ほかはよろしいでしょうか。

それでは、自己評価3ですが、評価委員会の評価は3でよろしいですか。

では、3とさせていただきます。

これ、ここで切らさしてもらってええのかな、次まで行きますか。

【藤井（保健医療課課長）】 すみません、第3までお願いします。

【豊田委員長】 じゃ、第3、説明をお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 20ページの終わりから21ページになります。

大項目第3、財務内容の改善に関する目標を達成するため取るべき措置について御説明いたします。

大項目2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置で定めた計画を実施するため、ベッドコントロールチームを中心に適切かつ効率的な病床運用に努め病床稼働率の向上を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により新入院患者数及び病床稼働率ともに計画値を下回っていますが、集中治療室の稼働率の上昇や中等症以上の新型コロナウイルス患者の入院受入れ、外来化学療法の増加に伴い、1人1日当たりの入院収益及び外来収益はともに増加したことから、医業収益は予算計画を達成しています。

また、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保に対する補償や、PCR検査や休日のワクチン接種実施に対する補助金など各種補助金等の交付により、令和3年度の減価償却前利益は15億4,900万円となっています。感染症の収束後を見据えて、さらなる収入の確保と費用節減が課題となっている現状でございます。

以上のことから、おおむね計画を上回って実施しているものとし、法人の自己評価は4となっております。

以上が大項目3の説明でございます。よろしく願いいたします。

【豊田委員長】 いかがでしょうか。御質問、御意見ございませんでしょうか。

【西村委員】 減価償却前利益のうち、補助金というのはどれぐらいを占めているんですか。

【豊田委員長】 いかがでしょうか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 補助金全体は12億ぐらいあるんです、いろんな補助金の中で。ただ、基本的には、補助金というのは使ったものに対する補助ですので。一番大きなものを占めているのはコロナの空床補償です。空床補償だけで約10億ちょっと、10億3,000万強というぐらいのところですかね。これが一番収益に大きな影響を与えた数字だというふうに思っております。

【豊田委員長】 そうか。減価償却前利益がこれだけで、今、債務の償還金というのはどのぐらいあるんですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 起債の償還ですか。起債の償還、大体7億ぐらいです、年間に。

【豊田委員長】 年間7億？

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 はい。

【豊田委員長】 そうすると、7億の借金を返してもまだ余るという。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 そうです。

【豊田委員長】 ちょっとおかしいけど。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 減価償却が13億ぐらいありますので、減価償却前利益というのは公的病院でよく用いる指標なんだろうという認識をしていますが、今回コロナの補助金もありましたので、最終損益の中で利益が出ている。これは当院が開院してから初めてのことでありますけれども、まだ次回の評価委員会のところは評価していただくんだと思うんですが、空床補償頼みというところはあるんですけれども、最終利益が出たのはよかったかなというふうに思っています。

【豊田委員長】 コロナ後に補助金がなくなったときにも利益は出せるように努力をしていただかないといけないということですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 減価償却前利益は必ず出ると思うんですけれども、減価償却後の最終利益が出るかどうかは院長の診療次第という感じなんです。

【伊佐地委員】 補足ですけど、今回いろんな病院のことを言うと、要するにコロナを積極的に受け入れた病院は補助金なんかの関係でかなり潤っているんですけど、あまり積極的にじゃなかったところは逆に赤字になっちゃっています。だから、分かれていますね。だから、やっぱり積極的に民間病院も受け入れなあかんかったんです。

【豊田委員長】 あと、御質問、何かございませんでしょうか。

自己評価は4となっておりますが、評価委員会の評価はどうしますか。

【伊佐地委員】 補助金があったということは、それは頑張ったということでもいいんじゃないですかね。

【豊田委員長】 だから、補助金をもらって利益の増えたのは当たり前だという評価と、伊佐地先生のように、補助金をもらうということはコロナに対して一生懸命やったと。

【伊佐地委員】 やったということだと僕は思いますよ。

【豊田委員長】 その御褒美としてもらったわけだから、そこは評価すべきじゃないかという御意見ですね。どうでしょう。

【西村委員】 はい、それで。

【豊田委員長】 よろしいですか。じゃ、多数決で。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 私、ずっと県のコロナ対策に関わって来ましたので、現在、県内は25病院ですか、コロナの入院患者を受け持ってくれたところは。それから、県としてはもっと増やしたかったんですけど、絶対に嫌だと言って。

【伊佐地委員】 だめでしたね。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 ええ。津市なんかでも本当にそれで困ったんです。

それで、結局25病院でみんな分担しましたけれども、病床が足りなくて大変なことになるんですけど。だから、ある程度のは仕方ないと。受けない、絶対嫌だと。だから、厚労省もそういう対応になったんだと思うんですね。

昨日、おとついで、また県のコロナの会議がありまして、そのときも第7波ですか、今度は。第6波よりもはるかにまだ患者は増えるだろうと。ただし、高齢者でそのとき軽症とか中等症の1ぐらいで、そういう人たちがほとんど何もすることないですよ。呼吸器的に何も問題ないし、ただ、入院だけさせておきたいと。

でも、今、東京ではそういう患者が増えているもので、病院をもっと増やそうと。コロナを入院させてくれる病院をもっと増やして、呼吸器内科医いなくてもいいから受け取れと。そういうふうに広げようという動きがあるという。

そこでちょっとコロナの補助金も分配するかも分からない。取りあえず増やさないとということ、三重県でいえば25病院にものすごく負担がかかったんです。これも大学が一番ひどかったたんですかね、先生の。だから、ある意味、これはしょうがないと思います。

【豊田委員長】 財務省が問題にしたのは、補助金を出したのにコロナを受け入れなかった病院があるということで、それを問題にしましたけど、桑名市医療センターはしっか

りとコロナを受け入れていただいたということですよ。

それでは、評価委員会の評価は4ということでさせていただきます。

それでは、残りは次の評価委員会に回させていただきますが、それでは、本日の評価委員会としての評価を確認するために、評価点とコメントを事務局から報告といいますか、確認をお願いしたいと思います。

**【藤井（保健医療課課長）】** それでは、ここまでの項目ごとに評価点とコメントの内容を確認させていただきます。

まず、中項目1、医療の提供、小項目1、重点的に取り組む医療の実施については、法人の自己評価は3、評価委員会の評価も3。

続いて、2番、地域医療連携の推進につきましては、法人の自己評価5、評価委員会の評価も5。

続いて、3番、災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力につきましても、法人の自己評価4、評価委員会の評価も4。

中項目2、医療水準の向上、小項目1、高度・専門医療への取組、法人の自己評価3、評価委員会の評価も3。

コメントといたしましては、年間計画については、評価者が達成できたかどうか確認できるよう具体的に記載。できれば数値をもってすることということによろしいでしょうか。

**【豊田委員長】** はい。

**【藤井（保健医療課課長）】** 続きまして、小項目2、医師の確保、法人の自己評価4、評価委員会の評価も4。

小項目3、研修医の受入れ及び育成、法人の自己評価は5、評価委員会の評価も5。

小項目4、看護師の確保及び定着、法人の自己評価は4、評価委員会の評価も4。

中項目3、患者サービスの一層の向上、小項目1、診療待ち時間等の改善、法人の自己評価3、評価委員会の評価も3。

小項目2、院内環境の改善、法人の自己評価3、評価委員会の評価は3。

小項目3、職員の接遇の向上、法人の自己評価3、評価委員会の評価は3。

中項目4、安心して信頼できる質の高い医療の提供、小項目1、医療安全対策の徹底、法人の自己評価は3、評価委員会の評価も3。

小項目2、信頼される医療の提供、法人の自己評価3、評価委員会の評価も3。

小項目3、施設設備の整備及び更新、法人の自己評価3、評価委員会の評価は3。

小項目 4、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発など、法人の自己評価は 3、評価委員会の評価も 3。

続きまして、大項目 2、業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置、中項目 1、適切かつ弾力的な人員配置、法人の自己評価は 3、評価委員会の評価も 3。

中項目 2、職員の職務能力の向上、法人の自己評価は 3、評価委員会の評価 3。

中項目 3、職員の就労環境の整備、法人の自己評価は 3、評価委員会の評価は 3。

中項目 4、効率的な業務体制の推進と改善、法人の自己評価は 3、評価委員会の評価は 3。

中項目 5、収入の確保、法人の自己評価 3、評価委員会の評価は 3。

中項目 6、支出の節減、法人の自己評価 3、評価委員会の評価も 3。

続きまして、大項目第 3、財務内容の改善に関する目標を達成するため取るべき措置、法人の自己評価 4、評価委員会の評価は 4。

評価については以上でございます。

**【豊田委員長】** それでは、委員の皆様、よろしいでしょうか。点数自体は自己評価と同じと、評価委員会の評価と今回は一致をしたということですがけれども、毎回何か 1 個や 2 個違うんですけども、今回は皆一緒でしたね。

コメントで、もうちょっと評価ができる、達成したかどうか分かるような具体的な、まずは年度計画を出していただきたいと。そして、その実績につきましても本当に達成されたかどうか分かるように、もうちょっと具体的な記載をしたいということですよ。コメントを付した項目以外のところにも幾つかそういう項目はあると思うので、次回からぜひよろしくお願ひしたいと思います。

ほかはどうでしょうか。よろしいでしょうか。御追加ございませんか、いいですかね。

では、ほかに御質問もないようですので、これで本日の議事を終了いたします。

あとは事務局でお願いします。

**【藤井（保健医療課課長）】** 本日は、長時間にわたり御議論いただきありがとうございました。

次回の評価委員会でございますが、本日の業務実績評価の続きと財務諸表等について御意見をいただくため、7月26日火曜日午後3時から、場所は本日と変更となりまして、桑名市役所2階の第1会議室というところになります。

資料につきましては本日の資料を引き続き使用しますので、御持参くださいますようお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。

本日はありがとうございました。

— 了 —